第１回あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会　議事概要

■開催日時：令和４年５月 13 日（金）13:30～16:00
■開催場所：こうち男女共同参画センター・ソーレ　大会議室
■出席委員：黒笹委員、霜浦委員、岡村委員、藤田委員、岡林委員、藤本委員、西脇委員、林委員、西内委員、林田委員、堀岡委員
■会長・副会長の選任
会長には黒笹委員を副会長には霜浦委員を選任
■議事：
（１）本年度の主な取り組みについて（資料１、２）
・別添資料１に基づき事務局より、資料２に基づき県関係各課及び市町村より説明

〇県・市町村・漁協等の取組に対するの委員等からの主な意見
・日曜市等のあゆの塩焼き販売について、四万十川だけのあゆを売るということではなく、県内 15 水系ある中であゆを提供できる漁協のあゆに名前をつけ、全国から来る観光客の方々に食べてもらうというのが、観光客に対して一番効果的な PR になるのではないかと思う。このため、火が使えない、場所がないではなく、県が焼けるブースを構えていただいくなど、何かいい方策を考えていただきたい。（林委員）
→　所管は高知市産業政策課になるが、街路市ということで道路交通法等の問題と、農家の朝市であり観光市ではないという対立みたいなものがある。もちろん、観光市ではないといっても、観光市としてのポテンシャルは所管課も理解はしている。しかし、元々は農家の朝市であるため、農家さんが販売するといったこれまでの成り立ちを保ちながら先ほどの意見を踏まえて検討することになると思うので、持ち帰って伝える。（高知市山中係長）
→　連携高知の事業の一つとして連携コマがあり、高知市以外の 33 市町村の連携したコマを作るところまで来ていることから、生活市と同時に観光市としての役割を市にもご理解いただき、そろそろ見直してもいいのではないか。また、出品者も高齢化し、品が欠けるようになっているのも事実なので、日曜市を高知県、高知市の観光に対して注力するタイミングではないかなと考えている。一度、市の担当部局も含めてご議論いただきたい。（黒笹会長）
→　本日の高知市からの出席者は担当部局ではないことから、事務局（高知県水産業振興課）から産業政策課に日曜市のことについて話を持って行く。（松村部長）
・火ぶり漁について、今後、再開される時は、お客さん自身が焼く場合には食品衛生法等の制限がないと思うので、獲ったものを食べられるような商品化をお願いしたい。（岡林委員）
・四万十川中央漁協では、ふるさと納税の返礼品に遊漁券をとりいれており、初年度の申し込みは１件、２件であったが、今年度はすでに申し込みがある。このため、認知度が増えていけば、今後もっと増えると考えている。（堀川委員）
・四万十川の各漁協、四万十市、四万十町、馬路村では SNS の発信などに取り組んでおり、先進地域であると考えられる。他の河川の関係者が学ぶ機会を協議会で仕掛けていければと考える。（黒笹会長）

・高知のあゆはおいしいと印象づけるあゆのブランド化が今後の戦略的に重要だと思う。そういった中で、天然あゆが基本であり、養殖あゆの塩焼きが混じらないといった品質管理が重要であると考えられるため、統一的な管理の仕方があればいいのではないか。また、天然あゆに放流あゆは含まれるのか。（藤田委員）

→　前進の会では天然にこだわるとの議論はあったが、天然遡上にまで限定したのもではなかったと認識している。天然遡上が豊富にある河川は理想であるが、天然資源を守るため、天然に近い稚鮎を県と内水面漁協が一緒になって放流している。また、人工構造物等の影響で天然遡上のあゆが望めない地域等の場合は、放流に頼らざるをえない事情もある。（西山副部長）

・商談会の開催時期が大体９月終わりぐらいから 11、12 月にかけてに実施することなっているが、鮮魚ではなく主に加工品と考えていいのか。（西脇委員）

→　その時期にあるものを提案することになる。違う時期に例えば翌年の７月に天然物を売りたいのであればそういった商談も可能と考えている。また、良い状態のあゆを冷凍した商品であれば、冷凍品でも問題ないと考えている。（山﨑企画監）

→　商談会は地産地消・外商課が行う規模の大きいものと、水産振興部が行う「応援の店」などを対象とした小規模な商談会があり、水産振興部では昨年度はあゆも紹介したことがある。時期や紹介の仕方（展示会、試食商談会など）など、ご希望があれば一度ご相談いただきたい。（濱田副部長）

・養殖あゆの生産量は全国的に減少しており、あゆはどんどん消費者から離れていっている。一方で、幼少期に天然あゆを食べて育った方からは強い支持があり、子供の時の食育が重要と考える。（西内委員）

→　東京のあゆを出す飲食店から、昔、天然あゆを食べた記憶がある方たちがお店に来てくれているとの話があった。子供たちに美味しいあゆを食べさせないと、あゆの消費拡大の将来が見通せないと感じている。このため、高知のあゆがもっと大きなブランドとして確立するためには、あゆをカツオの様に地位向上させる必要があると考える。（黒笹会長）

・飲食店等にあゆのサンプルを送るための予算はあるのか。（林委員）

→　予算は確保している。（松本企画監）

・情報発信について、ターゲットの設定などの戦略があるのか。（霜浦副会長）

→　当情報発信の対象とするのは、県内外両方で、県内の方は、県民の皆様にあゆの価値を再認識していただき、高知県と言えばあゆというのを連想していただけるようにしたいと考えている。また、県外についてはこれまでは高知に来て、県全域であゆを食べられる情報を発信してる HP がないため、観光客の方を対象にしている。加えて、外商公社、外商課と連携して東京のアンテナショップでメディア向けのあゆの情報発信を行う部分については、県外、県内のそれぞれのメディアで高知県のあゆを PR することから、県内外が対象になると考えている。（青野チーフ）

・藤本社長のホテル（城西館）に県外から来られるお客様で、高知のあゆを食べたいと言う人は多いのか。（黒笹会長）

→　かつおには勝てない（少ない）。また、食育（家庭であゆを食べる習慣）や、あゆの安定供給、鮮度について整理しないと、あゆを食べられる店の認定などが難しいと考える。（藤本委員）

・高知県の関係人口を強化していくきっかけ作りとして、あゆを使うのが戦略的には面白いと考えている。（黒笹会長）

→　かつおと比較して、かつおに勝てないという話はあるが、情報発信時に共通のハッシュタグを使うなどして皆で同じ方向に向かうことが重要であると考える。（岡村委員）

〇協議会主体の取り組みについて

・インストラクターの育成については、西脇委員がすでに実施しているので、まずはお手伝いをしてノウハウを吸収するなど、今後内容を検討する。（黒笹会長、西脇委員）

・ライトスタイルの提案については、釣り具及びキャンプ用品メーカーが取り組み始めている。（黒笹会長、西脇委員）

・釣り道具の継承に関しては、今後、議論する機会や、各地区で取り組む予定があれば協議会としてもしっかり応援していく。（黒笹会長）

（２）作業部会の設置について（資料３）

〇主な意見

・事務局から提案のあった、情報発信部会、流通販売部会に加え、かつお県民会議に資源調査・保全分科会があるように、あゆも資源があっての情報発信や流通販売であることから、資源管理部会が必要と考える。（黒笹会長）

→　四万十川西部漁協の組合長が、自らの資金で川底を掘り起こして確認したところ、川底が砂でつまって水が通らない状況にあることが判明した。このことは、この会でも伝えて欲しいと組合長から言われており、他漁協でも、河川環境に興味を持ってる組合長さんがかなりいると思うので、この作業部会は是非設置して欲しい。（林委員）

→　資源管理部会はぜひやっていただきたい。また、資金は別にしてマンパワーは漁協さんが中心になると思うので、漁協さんに合意形成いただくこと、細々とでも継続していただきたい考える。また、鮎は、半分は海のなかで過ごすため、海の問題が大きいため、海の関係者との話も今後はしていくべきだと考える。（藤田委員）

→　内水面の漁協としては、資源保護、増殖等の活動をみんなでやりたいと思っている。漁協はどんどん活動していくので、協力していただければありがたい。（林田委員）

〇今後の方針

・情報発信、流通販売、資源管理の３部会を立ち上げることで決定。

・作業部会の委員に関しては、会長と事務局で相談の上、個別に打診がすることで決定。

（３）その他

特になし